

平成31年度 九州医療専門学校 歯科衛生士科

科目名	解剖学			学年	1 年 52 期生
担当者				期別	前期
単位数	2 単位			講義・実習	講義
時間数・授業回数	2 時間× 15 回			専任・兼任	兼任
実務経験	久留米大学歯科口腔医療センターに所属する歯科医師。口腔外科や、その他の歯科医院での実務経験をもとに、解剖学についての講義を行います。				
一般目標 (GIO)					
<p>人体の構造を理解するために必要な、身体の一部の一般的な構造を理解することを目的とする。</p> <p>具体的には骨、筋、神経、消化器系、呼吸・循環器系、感覚器系等の一般的な構造、及び発生について学習し、体の構造を機能と関連づけて理解し、疾患の病態の理解に役立てられるようにする。</p>					
回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	4	17	1	解剖学総論:人体の構成と区分	人体の各部位を説明し、方向用語を用いて人体の部位を説明できる。
2		24	1	組織学総論:細胞と組織	細胞の基本構造を説明できる。組織を4つに分類し特徴を説明できる。
3	5	7	1	組織と発生	染色体とDNAの関係を説明できる。
4		21	2	骨格系:骨額総論	各部位の骨の名称を説明できる。
5		29	1	骨格系:骨の機能	骨の機能と構造について説明できる。
6	6	19	1	筋系①	生体を構成する主な筋をあげる。
7		26	1	筋系②	筋による運動を説明できる。
8	7	3	1	神経系:末梢神経	神経系を分類し、各神経系の解剖学的特徴を説明できる。
9		10	1	神経系:中枢神経(脳・脊髄)	中枢神経の構造と各部位の働きを説明できる。
10		17	1	脈管系	心臓の基本的構造を説明できる。
11	9	3	1	呼吸器系	呼吸器の構造と機能を説明できる。
12		10	1	消化器系	食物が消化・吸収される経路を説明できる。
13		17	1	内分泌系・感覚器	内分泌腺の種類を説明できる。感覚受容器の構造について理解できる。
14		24	1	泌尿器・生殖器系	腎臓の構造と循環系との関係を説明できる。男性生殖器、女性生殖器の構造を概説できる。
15	10	1	1	まとめ・復習	まとめ・復習。
評価基準				教科書	参考書
筆記試験	85%			医歯薬出版 解剖学・組織発生学・生理学	
平常点	15%				
	%				

1限目 (9:00~10:30)

2限目 (10:40~12:10)

3限目 (13:00~14:30)

4限目 (14:40~16:10)

平成31年度 九州医療専門学校 歯科衛生士科

科目名	生理学	学年	1年 52期生
担当者		期別	前期
単位数	2単位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	2時間×15回	専任・兼任	兼任
実務経験	医療法人福松会福泉歯科医院 医療法人健栄会門司歯科医院 歯科臨床従事 福岡歯科大学他に、教育経験		

一般目標(GIO)

生理学は、人体の機能とその仕組みをあきらかにする学問である。口腔の機能を学ぶにあたり、まず全身の機能を理解することを目的とする。
口腔生理学は、口腔を構成する諸器官の生命現象、機能を研究し、それらに存在する法則性を明らかにする生理学の一分野である。
複雑な口腔各器官の生理的機能を理解することを目標とする。また、口腔顔面領域の諸機能は身体の他部位から独立して営まれているので、全身機能との関連性を認識しながら学習してもらいたい。

回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	22	3	細胞と組織	細胞の構成体の機能を説明できる。
2	5	10	2	筋と運動	筋の収縮機序、調節機序、反射について説明できる。
3		13	3	消化・吸収	消化・吸収の経路を理解し、消化液の分泌調節機能を説明できる。
4		17	2	循環	血液の構成成分を類別し、その機能を説明できる。体循環と肺循環の仕組みを説明できる。
5		24	2	神経系	神経系を分類し、神経細胞の興奮と伝導の仕組みを説明できる。
6		27	3	呼吸	呼吸器の構造と機能を関連づけ、呼吸運動の制御の仕組みを説明できる。
7		31	2	排泄	腎臓の構造と循環系を関連づけ、尿生成の仕組みを説明できる。
8	6	7	2	体温	体熱の産生と放散を理解し、体温調節について説明できる。
9		10	3	内分泌 生殖	内分泌調節の仕組みを説明できる。
10		14	2	感覚	全身と口腔の感覚のメカニズムを理解し、活動電位について説明できる。
11		21	2	味覚と嗅覚	基本味と呈味物質を識別でき、味が受容される仕組みを説明できる。
12		28	2	咬合と咀嚼・吸啜	下顎位を理解し、下顎反射や咀嚼筋機能を説明できる。
13	7	5	2	嚥下と嘔吐	嚥下と嘔吐の機序を説明できる。
14		12	2	発声	発声の仕組みを説明できる。
15		19	2	唾液	唾液の性状と成分を理解し、唾液の分泌機構を説明できる。

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	100%	医歯薬出版	
	%	解剖学・組織発生学・生理学	
	%	口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学	

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(13:00~14:30)

4限目(14:40~16:10)

平成31年度 九州医療専門学校 歯科衛生士科

科目名	生化学	学年	1 年 52 期生
担当者		期 別	前期～後期
単位数	2 単 位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	4時間 ×7回・2時間 ×1回	専任・兼任	兼任
実務経験	東京大学大学院農学生命科学研究科、兵庫医科大学耳鼻咽喉科学教室、ミツカングループ本社の共同研究において、唾液分泌促進と老年性味覚障害緩和に関する研究に従事		

一般目標(GIO)

歯科疾患を把握し適切な処置を行うには、正常状態の人体生理を学ぶことが不可欠です。また人体は外界と相互作用し時々刻々「代謝」し続けるものです。その観点に立ち、物質代謝とエネルギーの流れ、外界から体内へと流入する栄養素・侵入する病原体の諸相を把握し、生化学の基礎的理解を確立します。そのうえで、特に口腔内に焦点をあて、将来歯科衛生士となったときに必要とされる基礎知識を確実に理解し体得するのが、本科目の目標です。

回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	5	28	1	ガイダンス、生物・化学の基礎事項確認	中学・高校で学んだ関連分野の知識と「生化学」のつながりを認識する。
2		28	2	I編 生命活動の概要①	原子・分子や物質の物理的性質・化学的特徴を理解できる。
3	6	4	1	I編 生命活動の概要②	体液のpH緩衝作用や物質代謝・酵素反応の概略イメージを把握できる。
4		4	2	I編 生命活動の概要③	糖質代謝の概要を理解できる。
5		11	1	I編 生命活動の概要④	脂質代謝の概要を理解できる。
6		18	1	I編 生命活動の概要⑤	タンパク質代謝・遺伝情報の概要を理解できる。
7		18	2	I編 生命活動の概要 確認テスト・解説	I編の内容を総復習し、必須事項を確実に理解できている。
8		25	1	II編 歯と口の生化学①	ヒドロキシアパタイト・硬組織について理解できる。
9		25	2	II編 歯と口の生化学②	歯肉の生化学的組成と炎症反応について理解できる。
10	7	2	1	II編 歯と口の生化学③	唾液の生化学的組成と再石灰化について理解できる。
11		2	2	II編 歯と口の生化学④	う蝕関連細菌の作用について理解できる。
12		16	1	II編 歯と口の生化学⑤	代替甘味料の有効性のメカニズム等を理解できる。
13		16	2	II編 歯と口の生化学 確認テスト・解説	II編の内容を総復習し、必須事項を確実に理解できている。
14		23	1	III編 栄養の基礎 ダイジェスト解説	I・II編で学んだことをふまえた栄養学への予習ができる。
15		23	2	IV編 食生活と食品 ダイジェスト解説	I・II編で学んだことをふまえた栄養学への予習ができる。
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%		医歯薬出版 栄養と代謝		
平常点	%				
	%				
	%				

1限目(9:00～10:30)

2限目(10:40～12:10)

3限目(13:00～14:30)

4限目(14:40～16:10)

平成31年度 九州医療専門学校 歯科衛生士科

科目名	病理学	学年	2 年 52 期生
担当者		期 別	前期
単 位 数	2単位(内 一般病理学1単位)	講義・実習	講義
時間数・授業回数	4時間 × 4回	専任・兼任	兼任
実務経験	口腔病理専門医・指導医および細胞診専門医を有し病理診断業務を実践する教員が、病理学の総論について解説する		

疾患に共通する基本的病態、すなわち疾患の原因、発生機序、経過、転帰および病変の病理組織学的特徴などを理論的に理解する。

回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	5	8	1	病理学序論 病因論 遺伝性疾患	病理学の意義を説明する 病因と疾患の関係を説明し、病因の分類を述べる 遺伝子・染色体異常を説明する
2			2		
3	5	22	1	細胞、組織の障害 増殖と修復	代謝障害および変性を説明し、分類を述べる 壊死とアポトーシスを説明する 再生、萎縮、肥大、過形成および化生の定義を説明する 肉芽組織の特徴および生体での利用を説明する
4			2		
5	6	5	1	循環障害 炎症	血液分布異常を説明する 閉塞性循環障害を説明する 炎症の定義を説明し、分類を述べる 特異性炎を説明し、分類を述べる
6			2		
7	6	12	1	免疫の病理 腫瘍	アレルギーの分類を述べる 自己免疫疾患および免疫不全症を説明する 腫瘍の定義を説明する 良性腫瘍と悪性腫瘍の違いを説明する 腫瘍の組織学的分類を述べる
8			2		
9					
10					
11					
12					

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	100%	医歯薬出版 病理学・口腔病理学	
平常点	%		
	%		
	%		

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(13:00~14:30)

4限目(14:40~16:10)

科目名	微生物学		学年	1 年 52 期生	
担当者			期別	前期	
単位数	2 単位		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	2 時間× 15 回		専任・兼任	兼任	
実務経験	福岡歯科大学にて口腔細菌学の助手を務めた後、歯科医院を開業し歯科医師として臨床に携わっている。また、本校にて27年間微生物の講義を担当している講師が、歯科衛生士に必要な微生物学を講義する。				
一般目標 (GIO)					
<p>口腔疾患の多くは感染症であり、代表的な疾患として辺縁性歯周病が挙げられる。近年の研究で歯周病は全身疾患の増悪に関与していることが明らかとなってきた。全身疾患との関連性を理解するためには生体内での微生物の活動様式および、生体の防御機構である免疫を理解する必要がある。この点を理解しやすい資料を用いて、歯科衛生学として必要最低限の情報を提供し、微生物の基本時性情、病原性と感染によって生じる病態と生体の防御機構としての免疫に関する基本的知識を習得する。</p>					
回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	4	11	2	微生物の分類	微生物学の歴史を紐解きながら微生物の名称を記憶
2		18	2	感染と免疫1:定義	感染とは何かを理解し言葉の意味を記憶
3		25	2	感染と免疫2:免疫担当細胞	生体内で活躍する細胞について理解と記憶
4	5	9	2	感染と免疫3:サイトカインネットワーク	細胞同士がどのようなネットワークでつながっているか
5		16	2	感染と免疫4:サイトカインネットワーク	細胞同士の連携を理解
6		23	2	感染と免疫5:抗原抗体反応	微生物を駆除する仕組みを理解
7		30	2	感染と免疫6:アレルギー	身近に存在するアレルギーの仕組みを理解
8	6	6	2	微生物学各論1:真菌	常在菌として重要な役割を示すことを理解
9		13	2	微生物学各論2:ウイルス	ウイルスの増殖過程を理解
10		20	2	微生物学各論3:ウイルス	ゲノムとタンパク質の生合成を理解
11		27	2	微生物学各論4:リケッチア・クラミジア	偏性細胞寄生性を理解
12	7	4	2	口腔感染症1:う蝕	う蝕発症までの過程を理解
13		11	2	口腔感染症2:辺縁性歯周病	歯垢・歯石の病原性を理解
14		11	3	口腔感染症3:その他	様々な口腔感染症を理解
15		18	2	滅菌と消毒および化学療法剤	院内感染を防ぐ手段を理解
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%		医歯薬出版 微生物学		
平常点	%				
	%				
	%				

1限目 (9:00~10:30)

2限目 (10:40~12:10)

3限目 (13:00~14:30)

4限目 (14:40~16:10)

平成31年度 九州医療専門学校 歯科衛生士科

科目名	一般薬理学	学年	1 年 52 期生
担当者		期別	後期
単位数	薬理学2単位(内 一般薬理学24時間)	講義・実習	講義
時間数・授業回数	2時間×12回	専任・兼任	兼任
実務経験	医療法人福松会福泉歯科医院 医療法人健栄会門司歯科医院 歯科臨床従事 福岡歯科大学他にて、教育経験		

一般目標(GIO)

薬理学は、薬物を生体に与えた場合に生体が現す反応を研究する科学であり、また疾病の治療、予防、診断における合理的な薬物療法を追求する学問である。薬物は疾病の原因除去や症状緩和を目的に使用されるが、副作用を惹起しない薬物はない。即ち、薬物の有用な作用だけでなく、副作用も認識したうえで、薬物を選択し投与しなければならない。そのためにも、薬物の作用や身体における薬物の働きを知ることは重要なことである。この講義では、薬理学の基礎的な概念を総論を通じて学習し、各論において個々の薬物の薬理作用を理解することを目的とする。

回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	9	6	3	薬物の作用 薬物動態	薬物の用量と作用について説明できる。薬物動態を概説できる。
2		13	3	薬物の適用方法 薬物の作用に影響を与える要因	適用方法を類別し、特徴を説明できる。薬効に影響する因子と生体感受性について説明できる。
3		20	3	薬物の副作用、有害作用 医薬品を適用する際の注意	薬物の副作用、有害作用について説明できる。対象者への服薬指導について説明できる。
4		27	3	薬物の取り扱い 薬物と法律	薬物の剤形、配合変化、保存方法について説明できる。処方箋の記載事項を列記することができる。薬物関係の法律を説明できる。
5		30	3	末梢神経、中枢神経に作用する薬物	神経伝達物質と受容体について説明できる。神経機能に作用する薬物について説明できる。
6	10	11	3	腎臓、呼吸器、消化器に作用する薬物	腎臓、呼吸器、消化器に作用する薬物をその薬理作用と病態メカニズムを関連づけて説明できる。
7		18	3	循環器、血液に作用する薬物	循環器、血液に作用する薬物をその薬理作用と病態メカニズムを関連づけて説明できる。
8	11	1	3	免疫と薬 悪性腫瘍と薬	免疫に関連する薬物の作用機序について説明できる。抗悪性腫瘍薬の作用機序について説明できる。
9		8	3	代謝性疾患治療薬	糖尿病、骨粗鬆症治療薬の作用機序について説明できる。
10		15	3	炎症と薬	抗炎症薬、中枢性鎮痛薬の作用機序について説明できる。
11		22	3	局所麻酔薬	局所麻酔薬を分類し、その作用機序について説明できる。
12		29	3	消毒薬 抗感染症薬	消毒薬 抗感染症薬の作用機序について説明できる。
評価基準				教科書	参考書
筆記試験		100%		医歯薬出版 薬理学 第2版	知っておきたい歯科衛生士のためのくすりの知識 (デンタルダイヤモンド社)

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(13:00~14:30)

4限目(14:40~16:10)